

うみは しろいな おおきいな

さく こしの ゆきのり





ゴーゴー、なにかが やってきた。

「そろそろ かな？」
キタキツネは やまの むこうへ
たびにでた。



ちょっと あるいた ところで
エゾリスに あった。

「どこに いくの？」
「しろい うみを みにいくんだよ。」
キタキツネは にっこり こたえた。
「え？ あおい うみ じゃないの？」
エゾリスは ふしぎそうな かおをした。
そして、いっしょに ついていった。



また、ちょっと あるいた ところで
エゾシカに あった。

「どこに いくの？」

「しろい うみを みにいくんだよ。」

こんどは、エゾリスが こたえた。

「え？ あおい うみ じゃないの？」

エゾシカは ふしぎそうな かおをした。

「うん。ひろ～くて おおきいよ。」と

キタキツネが はなすと

「どんな うみ なんだろう？」と

エゾシカも いっしょに ついていった。





しばらく あるいた ところで
フクロウに あった。

「ホーホー、どこに いくんじゃ？」
「しろい うみを みにいくんだよ。」
こんどは、エゾシカが こたえた。
「ホーホー、もうすぐじゃ。」

あの おかから みえるぞ。」
フクロウは みんなの みちあんないをした。

「ホーホー、しろい うみは
りゅうひょう じゃよ。」



ようやく、しろい うみの みえる
おかに ついた。

「うわあ〜！」
みんな めを おおきく みひらいた。

「りゅうひょうだ！」
キタキツネは とおくを みまわした。



おかを くだり うみに ついた。

「ホーホー、りゅうひょうは
うみに うかぶ こおり なんじゃ。」

「あ！」
とつぜん、キタキツネは はしりだした。

そして、りゅうひょうの うえで
アザラシに あった。

「また、あえて うれしい！」
「ぼくも、うれしいよ！」
キタキツネは にっこり ほほえんだ。



